

# 入賞

## 丘の上の漬け物屋さん

山形県 | 山形県立新庄神室産業高等学校 選手…3年生2名



まずは第一印象として、3階建ての建物を湾曲した木製のルーバーが巻き込むように取り巻く外観には審査員一同衝撃を受けた。東北らしい漬け物にスポットを当て、加工場とカフェ・販売所を併設した住宅とは思えぬその風貌は、まるで公共の文化ホールかと思えるような、オープンコミュニティを強く意識した計画である。

1階に漬け物製造工程を見学できる加工場を設け、2階には漬け物商品の販売所にカフェを併設、3階が経営者家族の住宅という職住一体のプランニングは明確なゾーニングで受け入れやすい。丘状の大階段を正面に設けたイメージパースは開放感があり、つい上ってみたくなる。

一方、2階・3階の木造架構部分が構造的・耐震的に安全性を確保できるのか疑問が残ること。丘をイメージした木製の階段やルーバー状の壁やウッドデッキ、屋根など耐久性はどうなのか。階段やバルコニーの手摺に関しても落下防止上安全と言えるのか。かなり悩ましいところではある。現実的にこのプランを実現させるには、大きなハードルがありそうだということで、上位までは採用されなかった。その辺りの

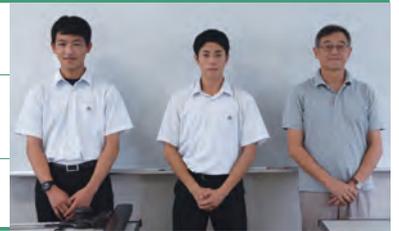


解決策をクリアできればもっと説得力が増すと思える。いずれにせよ提案者の素晴らしい発想力には、今後も大いに期待したい。(田中)

## 入賞

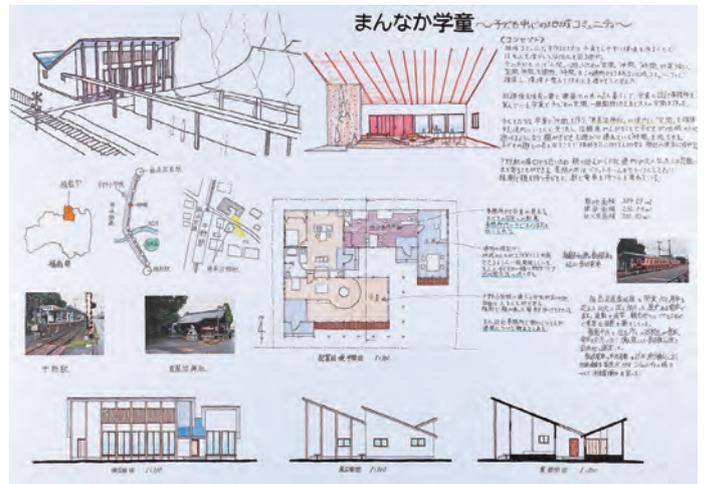
# まんなか学童 ~子ども中心の地域コミュニティ~

福島県 | 福島県立福島工業高等学校 選手…3年生2名



地域コミュニティをつくりつつ、子育てしやすい環境をつくり、住む人を増やして活性化を図るというコンセプトに対して、駅と神社の境内が近くにある敷地を選定したところは評価が高い。元々人が集まる機能をもつ場所に、一見関係ないような設計事務所と学童という機能を付加させることで、まちに活力を取り戻すというアイデアに説得力が生まれる。

ただ、案の内容がこのロケーションを活かしきれていないのが惜しいところ。屋根の形状についてプラットフォームをモチーフにするだけでなく、この場所の地域性や、駅や神社の境内との関係性を、もっと空間構成やデザインに繋げることができれば、よりいい案になっただろう。提案書はベーシックなまとめ方ではあるが、設計事務所と学童を生業として暮らすことの楽しさや、それによって地域に与える良い影響についてなど、今回考えたことの魅力をもっと伝える工夫があるとよい。設計事務所を営む建築士が、働き方を活かして地域に貢献できる可能性は、建築を学ぶ学生ならではの発想で素晴らしい。これから自身がめざす建築士像として、表現していったほしい。入賞おめでとうございます。(吉田)



## 入賞

# 祭りとハナレ—生活と地域を繋ぐ家

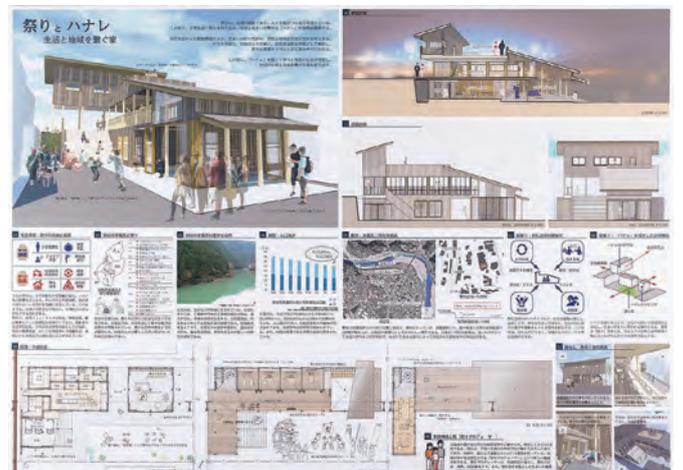
静岡県 | 静岡県立天竜高等学校 選手…2年生3名



浜松市天竜区の地域の祭りを建物に取り込んだ、祭りプロデューサー家族の住宅の提案。地域の社会課題に対する祭りを活かしたまちづくりがきめ細やかにまとめられている。みんなのベランダやみんなのテラス、ハナレのリビング等、段差を活かした祝祭景の創出や祭礼空間構成は構造面での疑問はあるものの、祭りの場としてよく考えられていると思う。

祭りを意識した住宅としては、祭りプロデューサーなので毎日が祭り、というイメージなのだと思うが、やはり日常生活(ケ)があつての祭り(ハレ)なのではないかと思う。そういった意味では、みんなのテラスやみんなのベランダは日常においてはどのように活用するのかという提案があってもよかったかもしれない。また日常の住居空間が1階の日当たりの悪い場所に押し込まれているイメージで、住居は3階に配置する等、採光なども含めてもっと豊かであってもよいのではないかと思う。

1人乗り電気自動車が停められている倉庫も道路へ出るには通り庭を通る形となるため、車は駅側の道路沿いに停めて歩車分離という形でもよかったのではないかと思うし、祭りが行われる神社等がまちのど



こにあるのか等も気になったが、全体的にはとてもよくできた作品だと思う。(石貫)

## 入賞

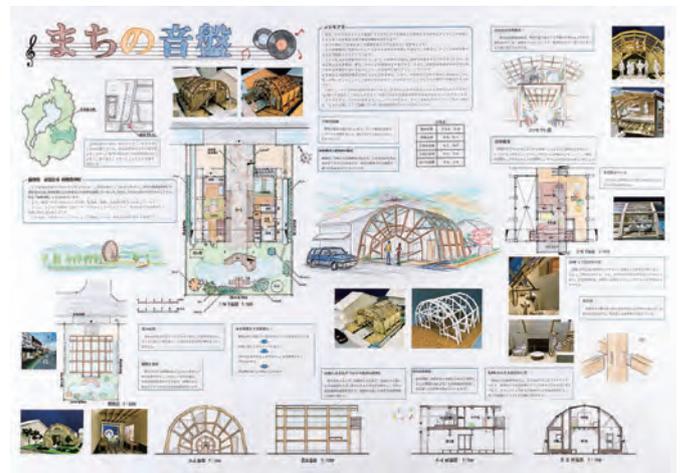
# まちの音盤

滋賀県 | 滋賀県立彦根工業高等学校 選手…3年生1名



住居内のLDKなどの共用空間と寝室・浴室などのプライベート空間を東西に分け、その中央部を南北に通る抜ける庭を設けて、その上部2階にピアノ練習室をのせ、その音が通り庭に響くよう工夫を施して、通り庭に地域の人を招き入れるユニークな提案である。豊かな水のまちの象徴である水車をモチーフに、地場産の木材を使った木造アーチ構造で空間全体を覆い、通り庭のアイストップには水車を配して、敷地内の池・水路の水循環に一役かわせている。

アーチ状の大屋根はガラス張りとなっており、環境の影響を受けやすい。そこを井戸水を上からかけ、夏の暑さ対策および冬の融雪装置として足元には水路を設け、排水・排雪に備えている。通り庭の両側は縁側に挟まれ、誰でも腰を掛けて休むことができる。LDKは縁側に掃き出し窓で開き、地域に開く楽しい仕掛けとなっている。構造、設備、外構にも楽しく、細かい工夫が施されている。(清水)



## 入賞

# 食でつながる家

福岡県 | 有明工業高等専門学校 選手…3年生1名



地区内の人口の高齢化率、保育園・幼稚園・小・中学校の数、生徒数等の社会条件、隣接する公園や通学路、バス停の所在等の敷地条件から地域と繋がるニーズが高い業種としての弁当屋を取り上げるまちに対する観察力が評価される。弁当屋といってもテイクアウトだけでなく、イートインスペースを確保し、図書室、授乳室・オムツ交換室、カウンセリング室を設ける等、細かいところに配慮しながら、さまざまな人の利用を促し、地域に開くよう努めている。職のゾーンにおけるこうした計画は、まちとの良好な関係性の構築をめざす試みである。

一方、住のゾーンは職のゾーンと完全に切り離され、個室重視の計画となっており、家族それぞれが個性的で自由な時間を過ごすことを重視している。ただし、将来的には空くことになる祖母の部屋や子ども部屋などを利用して外国人への間貸しや、民泊を行い、地域に開くことも考慮している。現段階でも個人の独立性を重んじつつ、地域に開く工夫を盛り込めたらより一層良かったと考える。(清水)

